

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

高千穂と波野を結ぶ路線、新しく開通した野尻への道を左折する。眼前に祖母の山々が顔を出し、真新しく舗装された道路を走る。

片山より下る道と合流し、古沢翁の胸像を望みかつては車を走らせていたが、今はその先を右折する。昼尚暗き箇所を過ぎると、やがて胡桃原へと至る。二軒あるだろうか山間に佇む家の前へ車を入れる。以前に此处出身のレコード歌手がいて、祭りか何かに出演された記憶があります。そんな事を思い車を走らせると、大野川の緩やかな流れを跨ぎ野尻川上神社が見えてきます。

この古きお宮の宝物として、菊池千本槍が奉納されています。

菊池一族であることを象徴する宝物であります。どうして此处にあるのか、それはまぎれもなく一族がこの地に移り住んだからであります。



▲野尻川上神社

菊池家滅亡の最大の要因として、兄弟仲の悪さより、片方は甲斐の国へ逃れます。やがてお家再興として甲斐の国により帰りますが、はたせず菊池一族は甲斐姓を名乗り御船より草部・野尻に居を構え今日にいたります。この野尻川上神社に残る槍は、まさにそれを象徴したものであり、菊池・甲斐家

一族の証でありましょう。

初秋の頃、境内にある樹齢三百余年だと云われる銀杏の大樹の下で、秋祭りが開催されます。隣県大分よりもたらされた、古式ゆかしく、子供達の掛け声により始まり、大人まで参加する勇壮で素朴な獅子舞が舞われます。その舞は獅子と子供達二手となり舞われます。指揮者の拍子木の音こそが、重要な舞を決定します。どこか哀愁をおび私達の心に染み入るこの獅子舞は、多くの人達で近年まで大変な賑わいでした。やがてその獅子舞は太鼓を鳴らし町中央のお飯屋へと移動します。

それにはまだ正確な見解は出ておりません。しかし天候のいい昼下がり、神社の前を流れるこの川に「河童」の遊びを想像する。それは一番似合っている風景かも知れません。

野尻川上神社を過ぎ、津留に入ります。

旧野尻小学校の跡地に、朋遊館と役場の出張所が見えてきます。そして農協・郵便局とかつては大分・宮崎両県からのお客様でも賑わっていた商店街が残っています。

この「津留」の地名は「鶴」と同意に使われます。本町内にあるもう一つの地名「津留」も、同じであります。豊かな河川の恩恵に与るから来ているのでしょう。しかし災害と深い関係にあります。川が急カーブし氾濫しやすい場所には「鶴」の付く地名が多く、私の自宅裏手は「したん鶴」と言います。色見川が大きく蛇行し河川工事が終わるまでは何度となく氾濫しました。

恩恵というらはらに、幾度となく繰り返された災害。地名を防災に活かしたものです。素晴らしき自然・野尻。その深き懐に入ります。